

高鍋町文化財調査報告書 第4集

高鍋町遺跡詳細分布調査報告書

1989. 3

こ ゆぐんたかなべちょう
宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

高鍋町文化財調査報告書 第4集

高鍋町遺跡詳細分布調査報告書

1989. 3

こ ゆぐんたかなべちょう
宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

序

宮崎県のほぼ中央を流れる小丸川の河口に位置する高鍋町は5世紀から6世紀にかけて築造されたといわれる持田古墳群（1961年2月国指定）をはじめとして多くの文化財を有する歴史と文教の町であります。

町内に広く分布し、高鍋町の古代からの歴史を語る町民の貴重な文化的財産である文化財を後世に残し、歴史のなぞを解く資料とするため、文化財の保護・整備をすることは、現代に生きる我々の責務であります。

近年高鍋町内におきましても、大型機械等による各種の開発事業等が実施されています。地下に埋れている場合の多い、埋蔵文化財を緊急に保護する必要があるとの認識のもと、この度、文化庁、県教育委員会の御援助御指導により、遺跡詳細分布調査を実施いたしました。

調査により、遺跡の確認はもとより、多數の資料を収集できましたことは今後の文化財保護事業を進める上で、大きな成果であります。

開発事業にあたっては、事前に関係教育委員会等と十分な協議をされることをお願いいたします。

遺跡詳細分布調査事業にあたり、格別のご協力とご配慮を賜わりました文化庁、県教育委員会、調査員、町民の皆様方に対し、厚く御礼を申し上げます。

本報告書が文化財の研究及び文化財愛護思想啓発のための資料として役立つことを切望いたしますとともに、町の文化行政に対し、なお一層の御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成元年3月

高鍋町教育委員会 教育長 岩 永 高 德

例　　言

1. 本書は、高鍋町教育委員会が昭和63年度に文化庁、県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 本調査は、埋蔵文化財に関する調査であり、内容は当町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布地図の作成である。
3. 本書の構成は、総説として歴史的環境を述べ遺跡地名表・主要遺跡概説・遺物実測図・図版・附図の遺跡分布地図からなる。
4. 本書に掲載された埋蔵文化財は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」である。
5. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施する場合には、工事着手の2ヶ月以前に文化長官に届け出ることが文化財保護法により義務づけられているので、「周知の埋蔵文化財包蔵地」およびこれに隣接する地域において土木工事を実施しようとする場合は、計画段階において高鍋町教育委員会（高鍋町大字上江1138番地・TEL 0983-23-3326）および県教育委員会文化課（宮崎市橋通東1丁目9番10号・TEL 0985-24-1111）に連絡し、文化財保護法による協議をされたい。
また、国および地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要である。
なお、埋蔵文化財は、その性質上未発見のまま地中に包蔵されている場合があり、工事等により当該文化財が発見された場合にも前記と同様、高鍋町教育委員会および県教育委員会文化課に連絡されたい。
6. 本書および、埋蔵文化財に関するお問い合わせは、高鍋町教育委員会および県教育委員会文化課へお願いします。
7. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得た、同院発行の25,000分の1地形図を複製したものである。（承認番号）平成九複、総複第105号

凡 例

- 埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は、地図上に赤色で示した。古墳群の場合にはこの範囲を で示した。また古墳以外の遺跡で範囲の確認、推定できるものは で示した。
- 地図の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。
- 「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城跡等は一番号とし、古墳群については群に対し一番号を付した。
- 各遺跡を大字で分け、1000番台は持田地区、2000番台は上江地区、3000番台は南高鍋地区、4000番台は蚊口浦地区、5000番台は北高鍋地区、6000番台は高鍋町地区とした。
- 遺跡名は、原則として小字名にしたがい、一部のものについては、通称、俗称によった。
- 遺跡の所在地は、大字名、小字名で示した。地番については、高鍋町教育委員会および県教育委員会文化課へ問い合わせられたい。

7. 調査の組織

調査主体	高鍋町教育委員会
教育長	岩永高徳
社会教育課長	加藤秀雄
社会教育課長補佐	江川雅章（担当）
調査補助員	長友昭夫
	高橋照久
調査指導	永友良典 (県文化課主任主事)

- 現地における踏査は、江川・高橋・長友が行った。
- 踏査にあたっては、「宮崎県遺跡台帳」等を基礎としたが、県文化財保護審議会委員および高鍋町文化財保護審議会委員など地元研究者の長年の調査研究によるものが大であった。

10. 本書の執筆・編集は永友と江川が当たり、遺物整理については渡辺やす子、荒木慶子、金子悦子、横山充子、井川祥子がおこない、実測・トレース等については永友、増田慈子、荒木がおこなった。
11. 調査にあたっては、出土遺物等について日高正晴氏（西都原古墳研究所長）、中武 弘氏（高鍋町歴史総合資料館）にそれぞれ御指導・御教示いただいた。
12. 報告書作成にあたっては野間重孝、茂山 譲、石川悦雄、日高孝治、大野寅男の各氏に御協力いただいた。記して感謝します。

総 目 次

I 総 説	1
高鍋町の歴史的環境	1
II 埋蔵文化財包蔵地地名表	3
III 主要遺跡概説	9
IV 高鍋町関連文献目録	27
附図 高鍋町遺跡分布図	

挿 図 目 次

第1図 持田古墳群分布図	10
第2図 正祐寺3号横穴墓実測図および出土遺物実測図	13
第3図 光音寺横穴墓出土遺物実測図	14
第4図 上ノ別府遺跡遺構分布図	15
第5図 上ノ別府遺跡出土遺物実測図および拓影(1)	16
第6図 上ノ別府遺跡出土遺物実測図および拓影(2)	17
第7図 持田中尾遺跡出土遺物実測図(1)	18
第8図 持田中尾遺跡出土遺物実測図(2)	19
第9図 持田中尾遺跡出土遺物実測図(3)	20
第10図 持田遺跡出土遺物実測図	21
第11図 牛牧遺跡出土遺物実測図	22
第12図 耳切遺跡出土遺物実測図	23
第13図 大戸ノ口遺跡出土遺物実測図および拓影	24
第14図 南中原遺跡出土遺物実測図	25
第15図 水谷原遺跡出土遺物実測図および拓影	26

図 版 目 次

図版 1 遺物実測図 (1).....	29
図版 2 遺物実測図 (2).....	30
図版 3 遺物実測図 (3).....	31
図版 4 遺物実測図 (4).....	32
図版 5 遺物実測図 (5).....	33
図版 6 遺物実測図 (6).....	34
図版 7 遺物写真 (1).....	35
図版 8 遺物写真 (2).....	36
図版 9 遺物写真 (3).....	37
図版10 遺物写真 (4).....	38
図版11 遺物写真 (5).....	39

I. 総 説

高鍋町の歴史的環境

高鍋町の歴史的環境

高鍋町は宮崎県の中央に位置し、東は日向灘に面する。町の北に小丸川、南に宮田川が東流し、下流一帯に海拔5～6mの沖積平野が広がる。特に、小丸川右岸一帯には旧河川域が形成されている。周辺地域には小丸川左岸に持田台地、小丸川右岸（宮田川左岸）一帯には牛牧～中尾台地が、また、宮田川右岸には水谷原～永谷にかけて標高50～60mの洪積台地が形成されている。

各時代の遺跡は洪積台地を中心に立地する。

旧石器時代 現在7箇所確認されている。大野寅男氏の精力的な踏査によって確認された雲雀山遺跡（ナイフ形石器・尖頭器・細石刃）、中尾原遺跡（細石核・尖頭器）、小並遺跡（石核）、茶屋原遺跡（ナイフ形石器）、耳切遺跡（ナイフ形石器）や、発掘調査で確認された持田中尾遺跡（円形搔器・尖頭器・ナイフ形石器）、妻道南遺跡（尖頭器）がある。いずれも姶良丹沢火山灰層（A-T層）より上層からの出土である。持田中尾遺跡出土のナイフ形石器は横剥ぎの剝片を素材とするが、その外の石器は縦長剝片を素材としている。また、妻道南遺跡出土の尖頭器は黒曜石を素材とする。

縄文時代 早期の遺跡として押型文土器が出土する妻道南遺跡と塞ノ神式土器を出土する水谷原遺跡がある。いづれも集石遺構を伴っている。さらに大戸ノ口遺跡でも集石遺構が検出されている。持田中尾遺跡では撫糸文系の塞ノ神式土器と押型文土器が出土している。また、耳切遺跡では手向山式土器が出土している。大戸ノ口遺跡では後期のキャリバー状の波状口縁をもつ土器も出土する。

弥生時代 前期から中期にかけての遺跡として持田中尾遺跡がある。竪穴住居跡2軒、土坑6基が検出され、朝鮮系の無文土器や刻目突窓を持つ彫形土器などが出土している。県内では数少ない前期から中期にかけての遺跡として注目される。後期になると牛牧遺跡や持田遺跡で竪穴住居跡が検出されている。特に、持田遺跡は持田古墳群内に所在しており古墳群との関連からも注目される。

古墳時代 町内には現在140基を超える古墳と横穴墓が確認されており隣接する西都・新富・川南同様古墳の分布が多い地域である。しかし、新富・西都のツ瀬川流域以南で確認されている地下式横穴墓は、持田鬼ヶ久保で昭和初期に落ち込みがあったという記録があるが、現在まで確認されていない。一方、古墳時代の集落跡は持田古墳群に隣接する家床の台地の上ノ別府遺跡で6世紀後半の時期にあたる竪穴住居9軒が検出され持田古墳群との関連が指摘されている。

小丸川左岸の持田の台地には前方後円墳10基、円墳75基からなる持田古墳群と台地の東端部の海岸沿いの斜面に横穴墓6基の正祐寺横穴墓が分布する。なお、上ノ別府地区北側に円墳数基が分布していたようである。小丸川右岸の中尾から牛牧にかけての台地の北側の縁辺部の牛牧地区に前方後円墳1基と円墳13基、北西側の縁辺部の大戸ノ口地区に円墳3基、台地北側と沖積平野との間の中間台地の青木山王地区に前方後円墳3基と円墳9基、さらに、その西側の老瀬地区の斜面に横穴墓12基がそれぞれ分布する。宮田川の右岸に広がる南高鍋地区の台地上にも宮田川に面する北側縁辺部から海岸に面する東側縁辺部に沿って古墳群の分布が見られる。北側縁辺部の西側には毛作地区で円墳5基、東側の水谷原地区では前方後円墳3基と円墳10基が分布する。また、毛作古墳の北側の台地斜面上には横穴墓7基の光音寺横穴墓が分布する。東側縁辺部では南側の永谷地区に円墳12基と台地北東角の雲雀山地区から日置牧地区かけて円墳6基が分布する。また、永谷地区的東斜面には横穴墓2基の永谷横穴墓群が分布する。

このうち、初期の古墳としては持田1号墳・48号墳が竪穴式石室をもつ100級の前方後円墳で5世紀前半の古墳としてあげられる。しかし、京都椿井大塚山古墳出土の鏡と同形鏡である三角縁天王日月四神四獸鏡が持田古墳群から出土していることから持田古墳群の造営開始の時期が4世紀後半までさかのぼる可能性を含む。その後、5世紀後半から6世紀初頭にかけて画文帶神獸鏡を副葬する持田14号墳・27号墳(50m級の前方後円墳)や23号墳(円墳)が造営され古墳群の最盛期をむかえる。この時期に他の古墳群の造営もはじまり青木山王地区・牛牧地区・水谷原地区では前方後円墳が築かれる。6世紀前半に舟形石棺を持つ持田15号墳、6世紀後半に横穴式石室を持つ持田84号墳等が造営され高塚は衰退し、横穴墓へとその主体が変わっていく。

歴史時代 高鍋町は古代の律令制下においては那珂郡に属しており、「延喜式」の日向十六駅のうち去飛(都農町)、児湯(木城町)の2駅が近隣地域におかれていった。中世になると当初、新納院に属していたといわれているが、南北朝時代の終りごろから土持氏が勢力をもつようになり、15世紀中頃に伊東氏にほろぼされるまで財部城を居城にしていた。その後、財部城は伊東氏、島津氏へと移り、近世になると秋月氏の居城として修築される。中世の遺跡としてはこの中世山城である財部(のち高鍋)城跡のほかと大字南高鍋大平寺の山腹に所在する土持墓地がある。

II. 埋蔵文化財包蔵地地名表

持田地区	1001～
上江地区	2001～
南高鍋地区	3001～
蚊口浦地区	4001～
北高鍋地区	5001～
高鍋町地区	6001～

1. 番号は地図の番号と一致している。

2. 旧番号のうち「台帳」は昭和38、49、52年度に作成した「宮崎県遺跡台帳」の遺跡番号、「地図」は昭和51年度刊行の「全国遺跡地図—宮崎県—」の遺跡番号である。

持田地区 1001~

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧 番 号		文 献	備 考
					地図	台帳		
1001	持田古墳群	大字持田字計塚他	古 墓	古 墓	16-47		21・22 24・25	昭和2.25 国指定

- 大字持田字計塚 (前方後円墳 1)
 大字持田字鬼ヶ久保 (円墳12)
 大字持田字西原 (前方後円墳 2、円墳 8)
 大字持田字西ヶ原 (円墳 3)
 大字持田字中尾 (前方後円墳 2、円墳 4)
 大字持田字閑所 (前方後円墳 3、円墳14)
 大字持田字穴ノ谷 (円墳14)
 大字持田字東光寺 (前方後円墳 3、円墳 7)
 大字持田字深川闇込 (円墳 6)
 大字持田字龜塚 (前方後円墳 1)
 大字持田字柳 (円墳 1)
 大字持田字正祐寺 (円墳 2)
 大字持田字塚の本 (円墳 3)

1002	正祐寺横穴	大字持田字宮ケ谷	横穴墓	古 墓	16-22	731		
------	-------	----------	-----	-----	-------	-----	--	--

(横穴墓 6)

1003	俵橋遺跡	大字持田字俵橋	散布地	中世				
1004	下り松遺跡	大字持田字下り松	散布地	绳文～弥生				
1005	上ノ別府遺跡	大字持田字上ノ別府	集落跡	弥生～中世	1012	16		
1006	鶴戸開込遺跡	大字持田字鶴戸開込・牛ヶ道	散布地	中世				
1007	塚の本遺跡	大字持田字塚の本	散布地	古 墓	1013			
1008	桧山遺跡	大字持田字桧山	散布地	绳文～中世				
1009	東光寺遺跡	大字持田字東光寺	散布地	古 墓				
1010	持田遺跡	大字持田字計塚	包藏地	先土器～中世	725 ～730	17・28		
1011	龜塚遺跡	大字持田字龜塚	散布地	古 墓				
1012	柳遺跡	大字持田字柳	散布地	古 墓				
1013	持田開込遺跡	大字持田字 持田開込	散布地	古 墓				

上江地区 2001~

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧 番 号		文 献	備 考
					地図	台帳		
2001	山王古墳	大字上江字山王	古 墓	古 墓			21・26	

(前方後円墳 3、円墳 7)

2002	牛牧古墳	大字上江字北牛牧他	古 墓	古 墓			21・26	
------	------	-----------	-----	-----	--	--	-------	--

大字上江字下耳切 (円墳 5)

大字上江字北牛牧 (前方後円墳 2、円墳 7)

大字上江字中原 (円墳 2)

大字上江字大戸ノ口 (円墳 4)

2003	老瀬横穴墓	大字上江字木ノ瀬	横 穴	古 墓			21・26	
------	-------	----------	-----	-----	--	--	-------	--

(横穴12)

2004	大戸ノ口古墳	大字上江字大戸ノ口	古 墓	古 墓			21・26	
------	--------	-----------	-----	-----	--	--	-------	--

(円墳 3)

2005	野首遺跡	大字上江字野首	散布地	古 墓				
2006	北中原遺跡	大字上江字北中原・山王	散布地	弥生～中世				
2007	羽根田第1遺跡	大字上江青木・羽根田	散布地	縄文～古墳				
2008	羽根田第2遺跡	大字上江青木・羽根田	散布地	古墳～古代				
2009	南中原遺跡	大字上江字森・南中原	包蔵地	弥生～中世				
2010	仙藏寺遺跡	大字上江字仙藏寺	散布地	弥生～古墳				
2011	鳥帽子形遺跡	大字上江字鳥帽子形	散布地	中世				
2012	耳切遺跡	大字上江上耳切	散布地	縄文			13	
2013	老瀬坂上遺跡	大字上江字老瀬坂上	散布地	縄文～古墳				
2014	東小並遺跡	大字上江字東小並	散布地	先土器～古墳			15	
2015	北唐木戸遺跡	大字上江字北唐木戸	散布地					
2016	牛牧原遺跡	大字上江字上牧原	散布地	縄文～弥生				
2017	下耳切第2遺跡	大字上江字下耳切	散布地	弥生～中世			15	
2018	下耳切第3遺跡	大字上江字下耳切	散布地	古墳～中世				
2019	北牛牧第1遺跡	大字上江字北牛牧	散布地	弥生～中世		1010		
2020	北牛牧第2遺跡	大字上江字北牛牧	散布地	古墳～中世				
2021	北唐木戸第2遺跡	大字上江字南唐木戸	散布地					
2022	南唐木戸第1遺跡	大字上江字南唐木戸	散布地					
2023	南牛牧第1遺跡	大字上江字南牛牧	散布地					
2024	南牛牧第2遺跡	大字上江字南牛牧	散布地	古代～中世				

南高鍋地区 3001~

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧 番 号		文 献	備 考
					地図	台帳		
3001	毛作古墳	大字南高鍋字山伏山	古 墓	古 墓			21・26	昭19.12.15 県指定

(円墳 4)

3002	水谷原古墳	大字南高鍋字水谷原他	古 墓	古 墓			21・26	
------	-------	------------	-----	-----	--	--	-------	--

いなりひがし
字稻荷東 (円墳 3)
字日置道東 (前方後円墳 1、円墳 1)
字上水谷 (円墳 1)
字水谷原 (前方後円墳 2、円墳 6)

3003	雲雀山古墳	大字南高鍋字高岡 他	古 墓・横穴墓	古 墓	16・40		21・26	昭19.12.15 県指定
------	-------	------------	---------	-----	-------	--	-------	------------------

字高岡 (円墳 1)
字水谷坂平付 (横穴墓 1)

3004	上永谷古墳	大字南高鍋字前古場	古 墓	古 墓			21・26	昭19.12.15 県指定
------	-------	-----------	-----	-----	--	--	-------	------------------

(円墳 5)

3005	下永谷古墳	大字南高鍋字日置牧	古 墓	古 墓			21・26	
------	-------	-----------	-----	-----	--	--	-------	--

(円墳 5)

3006	水谷横穴墓	大字南高鍋字小落水	横穴墓	古 墓	16・41	732	19・21 26	
------	-------	-----------	-----	-----	-------	-----	-------------	--

(横穴墓 2)

3007	光音寺横穴墓	大字南高鍋字光音寺	横穴墓	古 墓			16・12 21・26	
------	--------	-----------	-----	-----	--	--	----------------	--

(横穴墓 7)

3008	毛作第 1 遺跡	大字南高鍋字毛作	散布地	弥生～中世				
3009	四ツ塚遺跡	大字南高鍋字四ツ塚	散布地	弥 生				
3010	毛作第 2 遺跡	大字南高鍋字毛作	散布地	弥生～中世				
3011	毛作第 3 遺跡	大字南高鍋字毛作	散布地	弥生～古墳				
3012	毛作第 4 遺跡	大字南高鍋字毛作	散布地	弥生～中世				
3013	山伏山第 1 遺跡	大字南高鍋字山伏山	散布地	先土器～中世				
3014	杉谷上遺跡	大字南高鍋字杉谷上	散布地	绳文～中世				
3015	水谷原第 1 遺跡	大字南高鍋字水谷原他	散布地	绳文～中世				
3016	神祭野遺跡	大字南高鍋神祭	散布地	绳文～中世				
3017	越ヶ溝下遺跡	大字南高鍋字越ヶ溝下	散布地	弥生～古墳				
3018	雲雀山遺跡	大字南高鍋字雲雀山	散布地	古墳～中世			15	
3019	穗先田中島遺跡	大字南高鍋字穗先田中島	散布地					

蚊口浦地区 4001~

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧 番 号		文 獻	備 考
					地図	台帳		
4001	蚊口浦古墳	大字蚊口浦字蚊口	古 墓	古 墓			21-26	昭19.12.15 県指定

(四九五)

北高鍋地区 5001~

高鍋町地区 6001~

III. 主要遺跡概說

持田古墳群（1010）

持田古墳群は小丸川下流左岸に所在する前方後円墳11基と円墳76基からなる古墳群である。古墳群は国道10号線を境に東西に延びる標高約50mの台地上と台地の南東下に広がる沖積平野に形成されている。

西側台地上には前方後円墳10基と円墳75基が分布しており古墳群の中心となる。台地の西側縁辺部と南に延びる舌状台地に沿って前方後円墳が並び、台地中央には円墳群が分布する。東側台地には円墳が5基、台地下の平野部には前方後円墳一基と円墳四基が分布する。持田古墳群は昭和4年ごろから90基近くの古墳が次々に盗掘に遭い、多くの資料が県外に流失していった忌まわしい禍に見舞われた。しかし、昭和12年ごろから数年間にわたって古墳群の測量調査が行われ、梅原末治らによって散逸した遺物の追跡と古墳の原状の調査が行われた。

持田古墳群の出土品のなかで特筆される副葬品としては鏡があげられる。重要文化財に指定されている25号墳出土の画文帶神獸鏡や変形獸首鏡、伝持田古墳出土鏡とされている景初4年銘盤龍鏡など全部で34枚を数える。県内のその他の古墳群における鏡の出土量に比べても抜群に多い枚数である。そのうち、同型鏡も何例か見られる。1号墳出土の獸文緣神獸鏡は宮崎新田原古墳群山ノ坊古墳、熊本国越古墳、福岡沖ノ島21号墳出土の鏡と同型鏡である。20号墳出土の画文帶神獸鏡は熊本江田船山古墳、福岡山ノ神古墳出土の鏡と同型鏡である。14号墳出土の画文帶神獸鏡は熊本江田船山古墳、広島西酒屋古墳、岡山茶臼山古墳、大阪郡川古墳、三重神前塚、静岡岡津古墳、福井丸山古墳、栃木牛塚古墳などから出土した鏡と同型鏡である。また、25号墳出土の画文帶神獸鏡も同型鏡である。1号墳出土の盤龍鏡には『青蓋作境四神服 多賀国家人民息 胡子□滅天下復 大吉兮』の銘文が見られる。持田古墳出土と言われる三角縁大王日月四神四獸鏡は京都椿井大塚山古墳出土の鏡と同母關係にある。持田古墳群は5世紀前半に竪穴式石室を持つ100m前後の前方後円墳（1号墳・48号墳）の出現をもって始まる。5世紀後半から6世紀初頭にかけては画文帶神獸鏡を副葬する14号墳、27号墳などの50m前後の前方後円墳や23号墳などの円墳に代表され、古墳群の中心となる時期である。6世紀前半になると舟形石棺をもつ15号墳、倣製鏡などが副葬品として多くなり、6世紀後半から末にかけては横穴式石室をもつ84号墳に代表され最終段階となる。その後、横穴墓へと変わっていく。

このように、持田古墳群からは34枚もの鏡が出土しており、特に船載鏡の豊富な点や同型鏡や特徴的な銘文を持つ鏡が含まれている点に注目される。このことは、在地の墓制である地下式横穴墓を持つ西都原古墳群では鏡の出土数が10数枚と少ないとから、両古墳群の性

第1図 持田古墳群分布図

文献 (24) より転写



格、特に畿内政権とのかかわりを論ずるのに好資料と言える。

註 梅原木治「持田古墳群」宮崎県教育委員会 1969

谷口武範「持田古墳群からみたその社会」「えとのす23」新日本教育図書 1987

鈴木重治「日本の古代遺跡25宮崎」保育社 1985

持田古墳群主要古墳一覧

新番号	旧番号	墳形	全長(m)	内部主体	出土遺物	備考
1(計塚)	1	前方後円墳	99	竪穴式石室	盤龍鏡、獸面鏡、硬玉製勾玉	
3	6	円墳	18		長頸壺、直刀	
9	10	タ	25		勾玉、水晶切子玉、ガラス切子玉、小銅鏡	2段築成、周溝
11	11	タ	12		直刀、管玉	
12	13	タ	18		鏡2面(1面は乳文鏡)、勾玉、水晶玉、須恵器	
13	14	タ	20	木棺(?)	鏡2面(1面は内行花文鏡)、直刀、硬玉製勾玉、管玉、小玉	
14	15	タ	36		圓文帶神獸鏡、直刀、銀鏡、硬玉製勾玉、管玉、小玉	円筒埴輪、形象埴輪、葺石
15(石舟塚)	16	タ	42	舟形石棺		
	23	円墳	16		圓文帶神獸鏡、変形四獸鏡、直刀、勾玉、管玉	変形四獸鏡縁に「火竜」の銘
26 (山ノ神塚)	28	前方後円墳	44		第1主体部…直刀、管玉 第2主体部…美式環状乳神 試鏡、金環、 勾玉、切子玉、 環頭大刀	
27	24	タ	25		圓文帶神獸鏡、銅鏡	
30	40A	円墳	10		変形四神四獸鏡、齒牙形垂下飾、銅鏡、金環、勾玉	
34	34	タ	55		金銅製單龍頭刀柄頭、勾玉、管玉、銅鏡	周溝、葺石、円筒埴輪
39	38	タ	25	竪穴式石室	内行花文鏡、金環、銀環、管玉	
47	44	タ	53	タ	硬玉製勾玉、管玉、直刀	周溝
48	81	タ	81	タ	鏡3面、直刀	葺石
50	55	円墳	7		鏡1面、勾玉、直刀、小銅鏡 須恵器片	
53	56	タ	20	-	杏葉、鏡、管玉、雲珠、幣の引手 勾玉	
62(龜塚)	61	帆立貝式	50	木棺		円筒埴輪、形象埴輪、周溝
76	20	前方後円墳(?)	11		第1集中部…杏葉、雲珠、 鐵劍 鏡1面、玉類、 第2集中部…圓文帶環狀乳神 獸鏡、直刀、勾玉	
84		円墳	18	横穴式石室		
	無号	タ		タ	短頸壺、須恵器蓋环	
	48	タ			二角錐形四神四獸鏡 (推定)	
	49	タ	20		杏葉、社會具、鏡頭、鏡1面 横口壺	

文献(22)による。 谷口武範氏作成

高鍋町内所在の古墳

町内には持田古墳群以外に約60基の古墳・横穴墓が所在する。小丸川と宮田川に挟まれた上江地区では段丘の北側の一段低い段丘上の山王地区（前方後円墳3基・円墳9基）や段丘上の牛牧地区（前方後円墳1基・円墳13基）、老瀬地区（横穴12基）、大戸ノ口地区（円墳3基）などに古墳の分布が見られる。また、宮田川右岸の南高鍋地区の段丘上では、毛作地区（円墳5基）、光音寺地区（横穴墓7基）、水谷原地区（前方後円墳3基・円墳10基）、上永谷地区（円墳6基）、下永谷地区（円墳6基、横穴墓2基）、日置牧地区（円墳5基）、雲雀山地区（円墳1基、横穴墓1基）の各地区に、さらに小丸川左岸の持田地区にも持田古墳群の東側の正祐寺地区（横穴墓6基）に分布する。

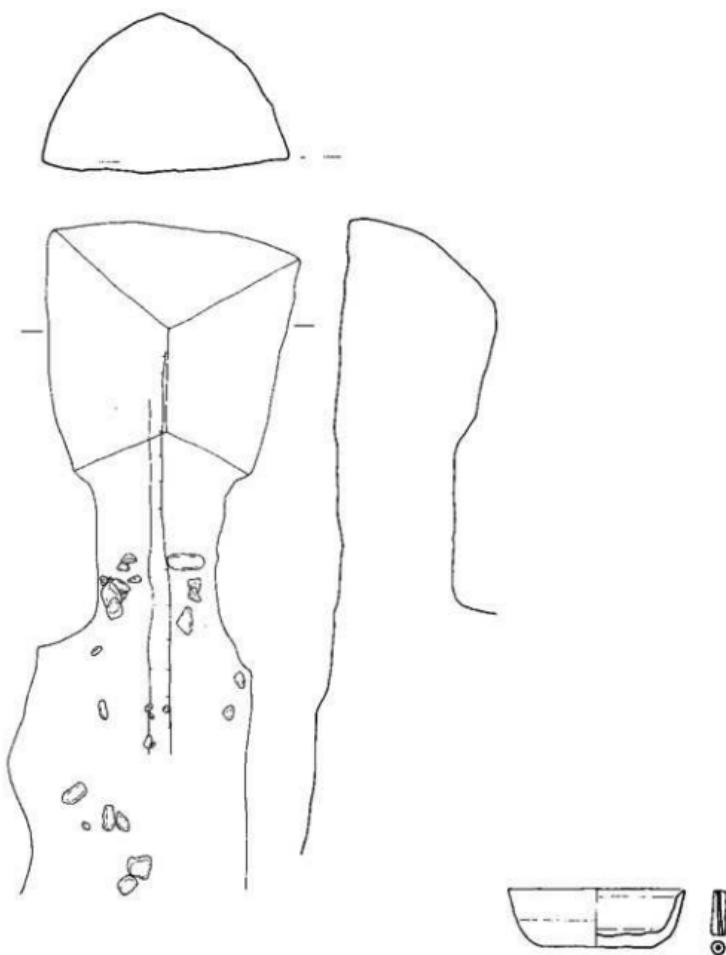
このうち調査などにより詳細の判明している古墳は少なく、横穴墓數基が調査されているに過ぎない。

水谷原古墳については道路工事にともない昭和49年に調査が行われ須恵器蓋付高壙、壙身蓋等が出土した。

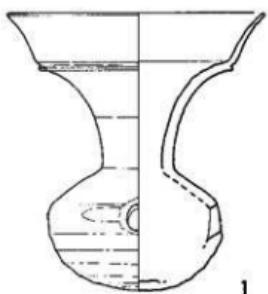
光音寺横穴墓は明治年間に2基が発見され、その後、昭和44年に3基、47年に2基の横穴墓が調査されている。昭和44年調査の3基のうち、3号横穴墓からは管玉、金環、刀子、鉄鎌、須恵器壙身蓋、土師器壙が出土した。4号横穴墓からは金環、刀子、鉄鎌、須恵器平瓶、壙身蓋、皿、土師器盤、5号横穴墓からは金環、銀環、管玉、刀子（うち1つは鹿角製頭裝具）、鉄鎌、鉢、釘のほか須恵器・身蓋、長頸壺等が出土している。昭和47年調査の2基は、6号横穴墓からは金環、勾玉、管玉や、土師器の高壙、高台付壙、壙、須恵器の甕、壙身蓋、7号横穴墓からは須恵器の壙身蓋が出土した。ほとんどの横穴墓が寄せ棟造りの構造を呈する。

正祐寺横穴墓は6基の横穴墓からなる。3号横穴墓を町教育委員会が昭和57年に発掘調査を実施した。寄せ棟造りの構造で須恵器の壙と管玉を出土した。

永谷横穴墓は2基が発見され昭和57年に町教育委員会が発掘調査を実施した。1号横穴墓からは金環、銀環、金銅輪、銅輪、須恵器壙身、土師器壙、直刀、2号横穴墓からは鉄鎌、刀子、銅環、土師器が出土した。



第2図 正祐寺3号横穴墓実測図(4分の1)および出土遺物実測図(3分の1)
(野間重孝氏の実測図よりトレース)



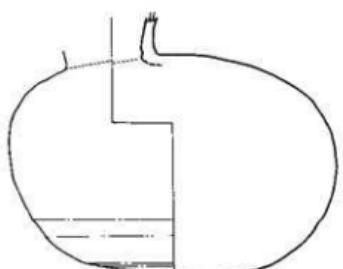
1



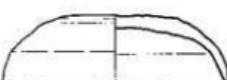
2



3



4



5



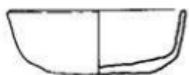
6



7



9



8

1~3 光音寺6号横穴墓出土

4~8 光音寺2号横穴墓出土

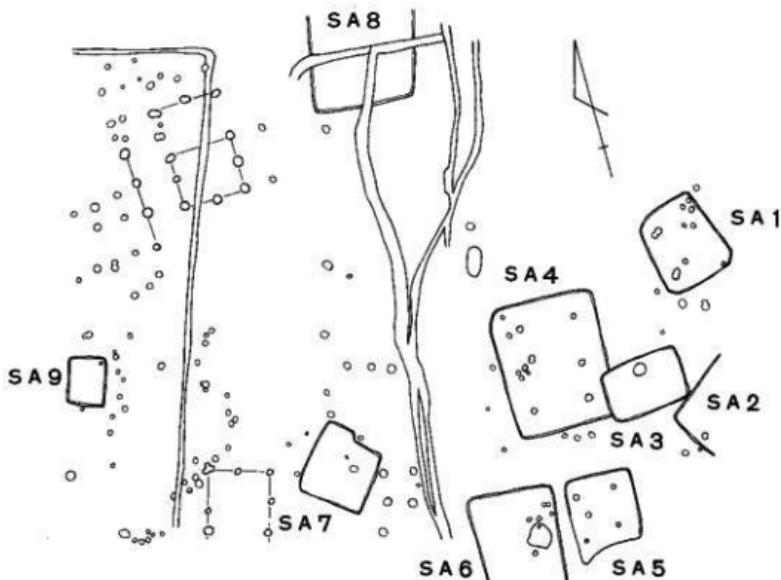
9 光音寺5号横穴墓出土

第3図 光音寺横穴墓出土遺物(3分の1)

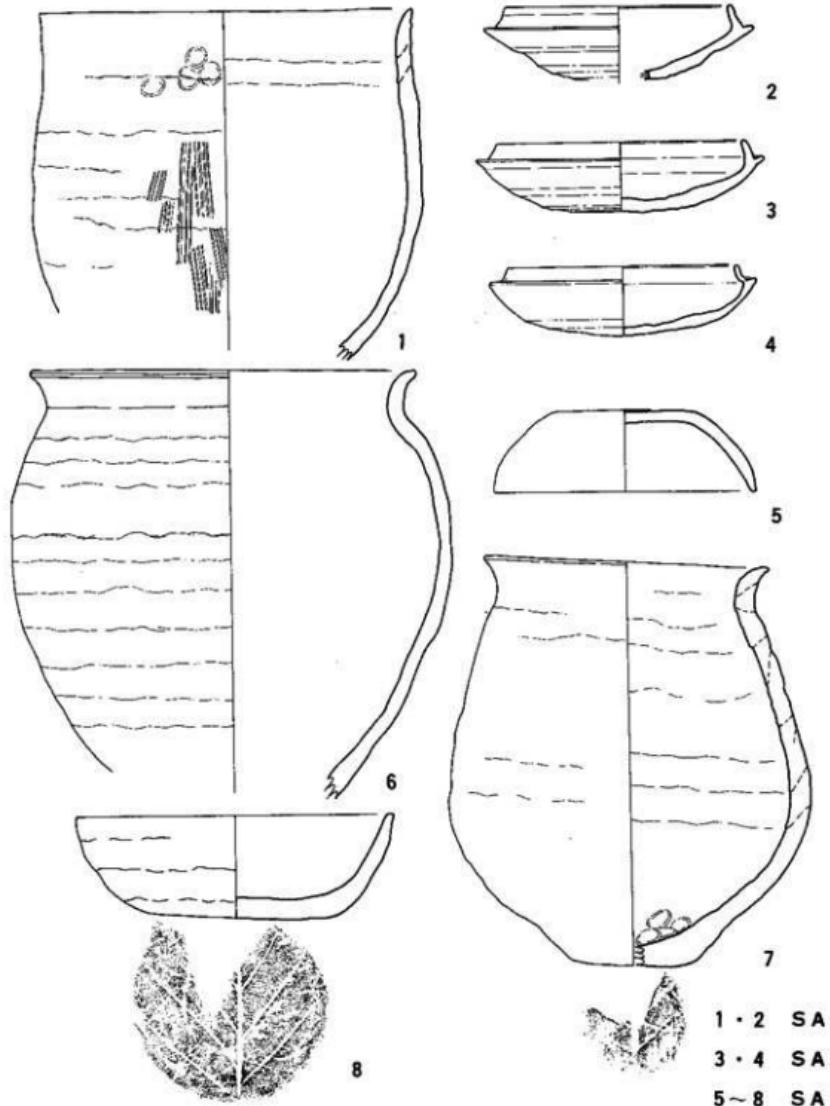
上ノ別府遺跡 (1005)

持田古墳群の分布する台地とは国道を隔てて東側に広がる標高50mの家床台地に所在する。昭和54年にお染ケ岡地区特殊農地保全整備事業に伴い県教育委員会が発掘調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居跡9軒の住居跡群が検出された。また、掘立柱建物跡の柱穴群や構状造構も検出された。住居跡は長方形ないしは方形プランで4本柱および6本柱のものが見られる。3号住居跡では住居中央よりやや北側に埋め甕炉的な施設が見られる。遺物は輪積み痕が残る土師器壺、木の葉底の底部、須恵器壺を模した土師器壺、須恵器の壺身・壺蓋、鏡などの土器類や、磨石、砥石、石錐の石器類もみられる。とくに磨石の量が多い。古墳時代後期以外の時期としては、頸部に刻み目突帯を持つ二重口縁壺を中心とした弥生時代後期の土器群や縄文時代晩期の土器も見られる。上ノ別府遺跡の古墳時代集落は“埋め甕炉”を設けた住居跡や出土遺物から6世紀後半の時期の集落跡と思われ、持田古墳群を築いた人々と関連のある遺跡である。遺跡は家床の台地に広がりを持つと思われる。

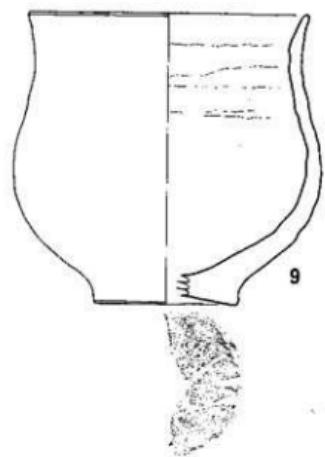
(註) 宮崎県教育委員会「上別府遺跡」『お染ケ岡地区特殊農地保全事業に伴う埋蔵文化財調査報告』1979



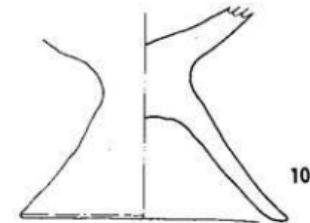
第4図 上ノ別府遺跡遺構分布図 (350分の1)
文献16よりトレース



第5図 上ノ別府遺跡出土遺物実測図および拓影（1）（3分の1）



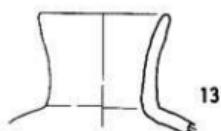
9



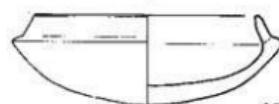
10



11



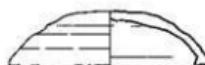
13



12



14



15



16



9~12・6 SA 4

13~15 SA 8

第6図 上ノ別府遺跡出土遺物実測図および拓影（2）（3分の1）

持田中尾遺跡（1001）

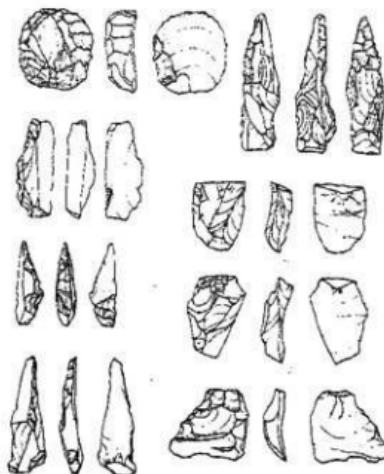
持田古墳群の分布する台地の中で、南に3つ突出した舌状の丘陵のうちの1つの丘陵の先端部に立地する。昭和56年に高鍋町教育委員会によって発掘調査が行われ、直径2.3mの円墳と、その下から先土器時代と弥生時代前期の遺構・遺物が検出された。

先土器時代の遺物では横長剥片を素材とするナイフ形石器や円形捶器などが見られる。

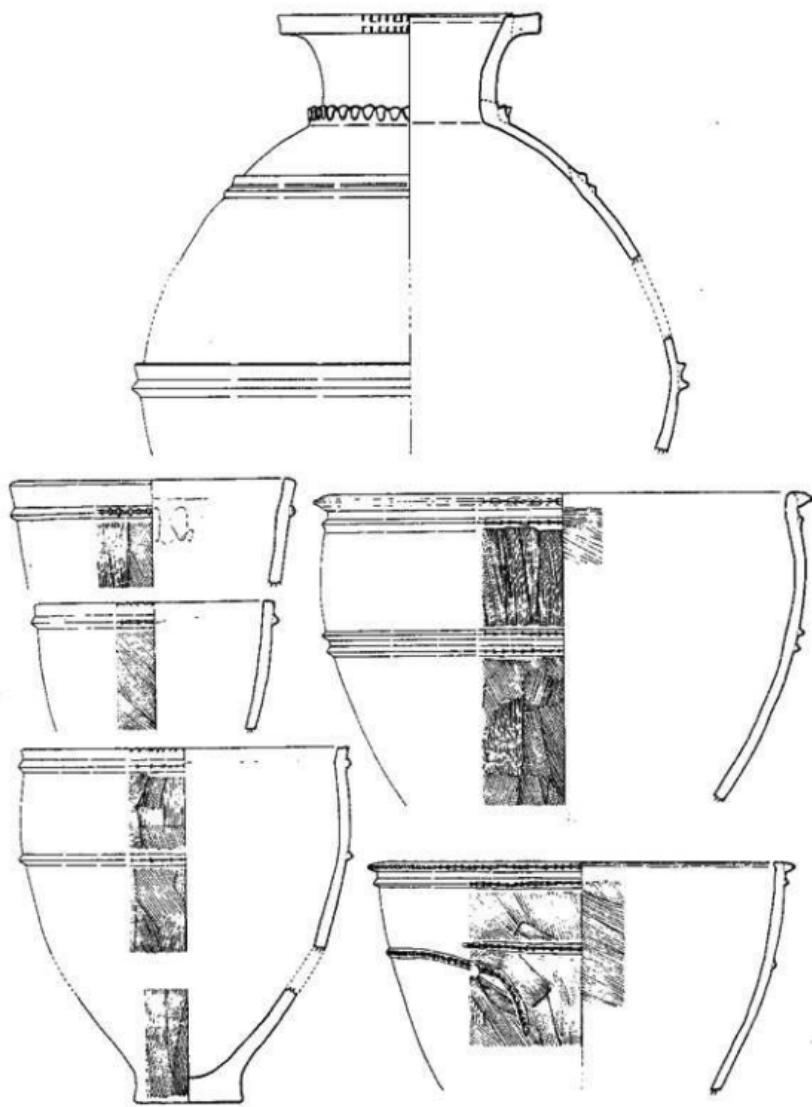
弥生時代の遺構としては竪穴住居跡2軒や土坑6基と丘陵を切断するかたちのV字構が検出された。1号住居は不整形の方形プラン、2号住居は4.7m×4.0mの円形プランを呈する住居跡である。遺物は口縁端部や胴部に刻目突帯文を施す菱形土器、瀬戸内系の壺形土器、朝鮮系無文土器が見られ、快入片刃石斧、柱状片刃石斧や大形石包丁、磨製石鎌、石劍が出土した。

円墳の主体部は割竹形木棺を用いた墓壙が確認されたが盗掘に遭っており副葬品は一切痕跡が認められなかった。

(註) 高鍋町教育委員会「持田中尾遺跡」(1982)

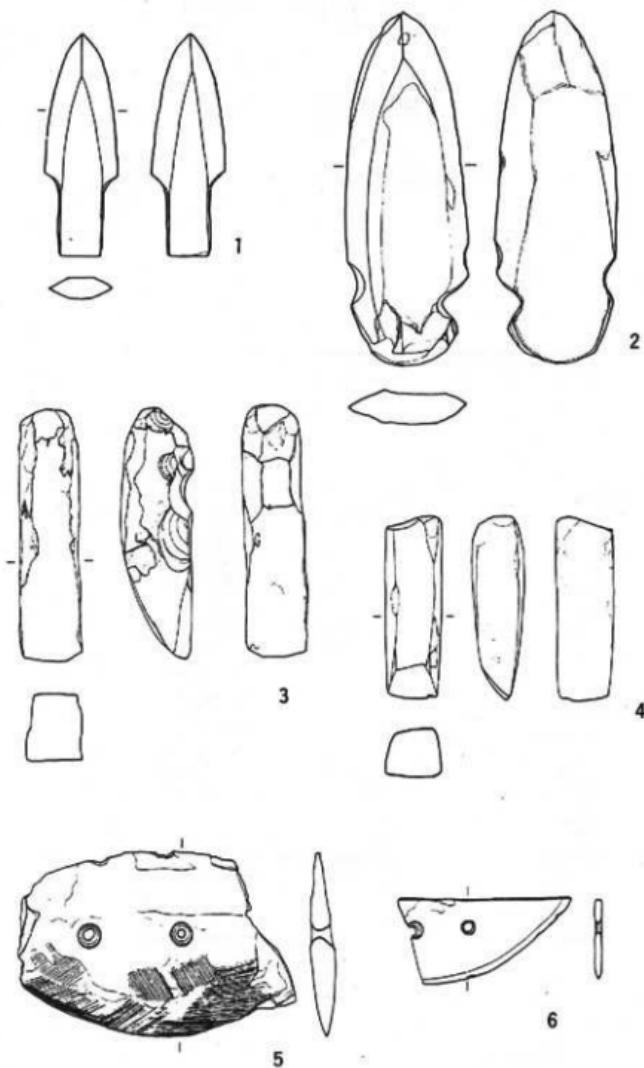


第7図 持田中尾遺跡出土遺物実測図（1）（3分の1）
文献（17）より転写



第8図 持田中尾遺跡出土遺物実測図（2）（4分の1）

文献（17）より転写

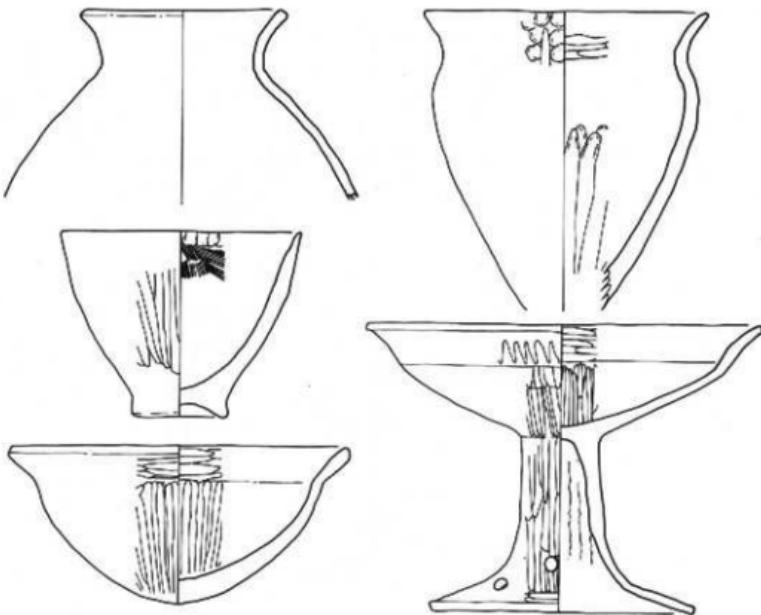


第9図 持田中尾遺跡出土遺物実測図（3）（1～4は3分の1、5・6は4分の1）
文献（17）より転写

持田遺跡（1010）

持田古墳群の所在する台地のほぼ中央部に位置する。遺跡の周辺には持田古墳15号、32号、33号、36号墳が隣接する。持田古墳群整備中に土器等が発見されたため、県教育委員会主体の第2次日向遺跡総合調査の一環として、昭和41年にトレンチ調査が行われた。半分ほど検出された第2号住居跡は一辺が480cmの不整形な方形プランの住居跡で、深さ約20cmを測る。この住居跡からは壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高壺形土器など弥生時代終末期の土器が出土している。立地からみて古墳群造営以前のかなり大規模な集落跡が想定される。

（註）宮崎県教育委員会「高鍋町持田の遺跡調査報告」「第2次日向遺跡総合調査第2・第3」（1967）



第10図 持田遺跡出土遺物実測図（4分の1）

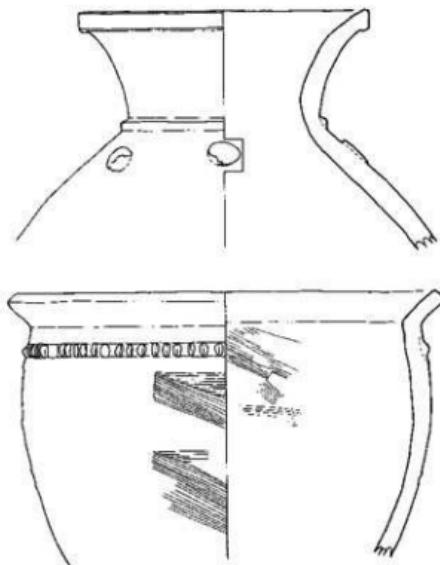
石川悦雄氏の作図よりトレース

牛牧遺跡（2028—大戸ノ口第3遺跡）

小丸川右岸の牛牧原台地の東端の縁辺部に位置する。高鍋農業高等学校農場の豚舎鶏舎建設等の際に土器片が多量に出土したことから、昭和44年に県教育委員会が主体となって発掘調査が行われた。

調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒を検出した。一辺6.4mの方形プランの住居跡で北西角に2.4×1.4m（深さ0.2m）の長方形の土坑を持つ。遺物は肩部に刻目突帯を持つ1条持つ平底の甕などの弥生土器のほか、両端にえぐりを持つ方形石包丁、摩製石斧、摩石などの石器も出土した。

（註）宮崎県教育委員会「高鍋町牛牧弥生期住居跡調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第16集（1972）

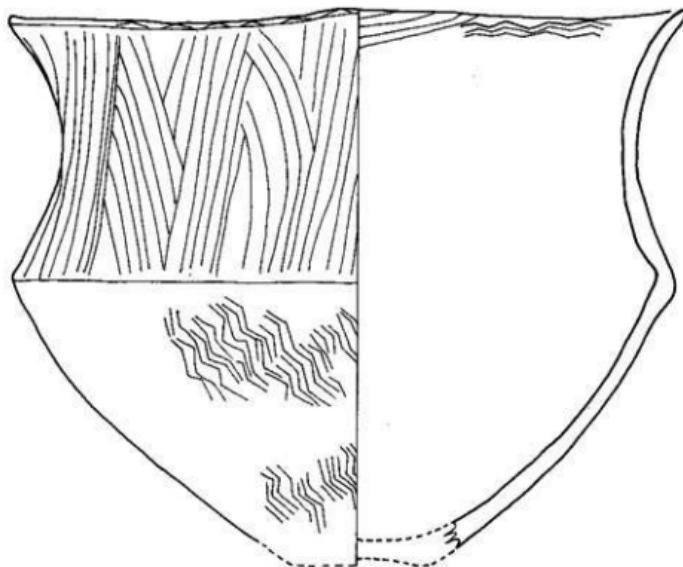


第11図 牛牧遺跡出土遺物実測図（3分の1）

耳切遺跡（2012）

小丸川右岸の牛牧原と呼ばれる河岸段丘上に位置する。発掘調査は実施されていないが、昭和50年11月に、果樹園造成の際に採集された深鉢型土器が、口縁部は四方に小さな突起をもつ低い山形隆起になっており大きく外反する。胴部で「く」の字に屈折し小さな平底の底部に至る。器面調整は屈折部の上下で異なる。上部の外反する口縁部には押し引きによる施文と思われるミミズぼれ状の平行細隆起線を5～6条を1単位として左右交互に斜行させている。下部の胴部から下には山形押型文が施されている。口唇端部に山形押型文、口縁部内面に山形押型文と平行細隆起線がそれぞれ施されている。この土器は、縄文時代前期の手向山式土器の基本型を示す土器として注目されており、縄文時代前期の良好な遺跡の立地が考えられる。

（註）茂山護「児湯郡高鍋町の縄文土器」『宮崎考古第2号』宮崎考古学会（1977）

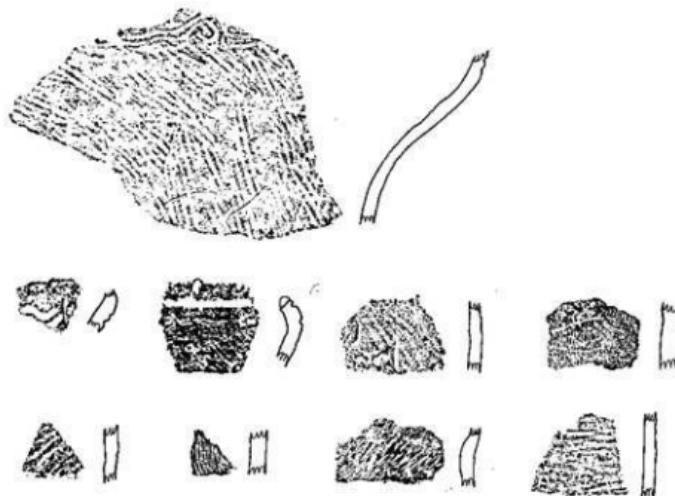


第12図 耳切遺跡出土遺物実測図（3分の1）
茂山護氏の実測図よりトレース

大戸ノ口遺跡（2027—大戸ノ口第2遺跡）

牛牧台地の東端部に位置する遺跡で、縁辺部には円墳が分布し、南側丘陵は舞鶴城跡が所在する。遺跡詳細分布調査に伴う試掘調査を昭和63年12月に行った。

突出した2本の丘陵からなっており 2m × 4m を基本としたトレンチを総数17本いれて調査した。その結果、西側の丘陵は既に A T 層近くまで削平されており包含層は検出されなかった。東側の丘陵では、T 8～10で表土直下で厚さ 5cm ほどのアカホヤ層が確認され、それより 20cm 下の硬質の褐色土層中から多量の焼け石と縄文時代早期の土器片数点を検出した。さらに、T 11～13ではアカホヤ層の上層の黒色土層が良好に堆積しており黑色土層下位からアカホヤ層直上にかけての位置から縄文時代後期の土器片数点が検出された。



第13図 大戸ノ口遺跡出土遺物実測図および拓影（3分の1）

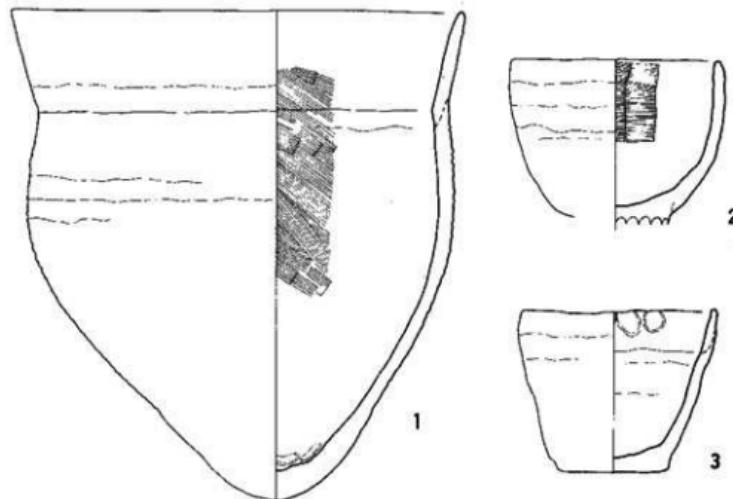
南中原遺跡（2009）

小丸川右岸の上江台地の一段下の河岸段丘上に位置する。標高15~20mで沖積平野との比高差は約10mを測る。北西の山王地区には前方後円墳3基を含む11基からなる古墳群が分布する。

発掘調査は羽根田地区開場整備事業に伴い昭和60年1月に県教育委員会が道路部分について実施している。

その結果、中世の柱穴群と古墳時代の土壙基が検出された。土壙は南北道調査区で検出された。直径約100cm、深さ30cmの皿状の円形プランを呈しており、タタキ調整の甕、高・の部、平底の端の3点がほぼ完形の状態で検出された。

柱穴群は東西道調査区から検出された。黒色土の堆積がかなり厚く包含層より土師器、陶磁器を出土したほか石斧、石錐も数点出土した。



1~3 土壙出土

第14図 南中原遺跡出土遺物実測図（3分の1）

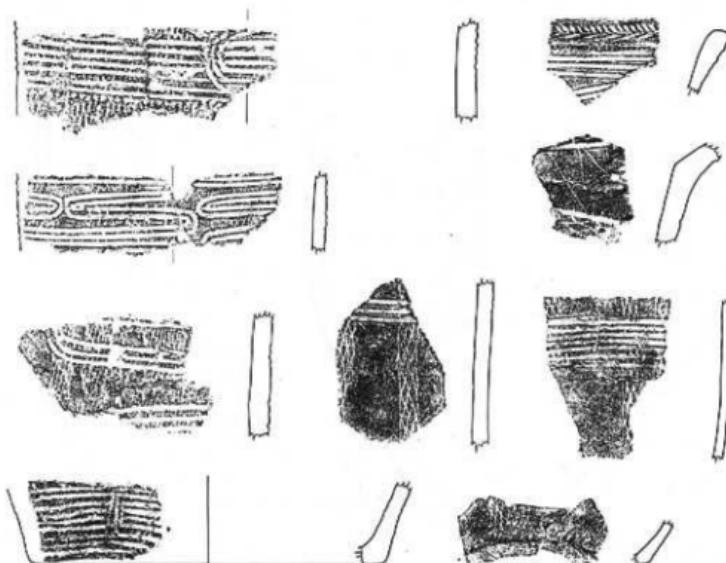
水谷原遺跡（3032）

小丸川右岸の標高約50mの洪積台地の北側縁辺部に位置する。昭和61年に県道日置～高鍋線改良工事とともに県教育委員会によって一部調査された。調査の結果、アカホヤ火山灰層直下の黒褐色土層中より縄文時代早期の掘り込みをもたない集石造構6基と土壙を検出した。遺物は撫糸文系の塞ノ神式土器、楕円および山形押型文土器の縄文時代早期の土器群と打製石鎌、磨石、石皿、搔器など石器が集石造構周辺の散疊間から出土している。土器の出土比率は塞ノ神式土器が大部分を占めておりこの時期を主体とする遺跡と思われる。

なお、集石造構を構成する疊は尾鈴山系の流紋岩質溶結凝灰岩の拳大の角疊を主に用いている。また、石鎌の石材には大分県姫島産の黒曜石を用いている。

（註）「水谷原遺跡」『県道日置～南高鍋線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』

宮崎県教育委員会（1988）



第15図 水谷原遺跡出土遺物実測図 および拓影（3分の1）
文献（23）より転写

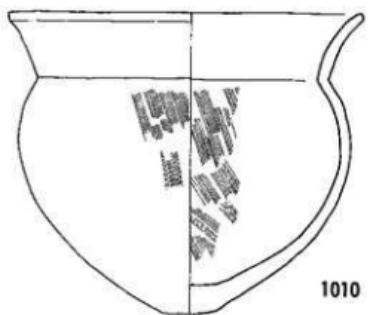
IV 高鍋町関連文献目録

1. 平部嶺南『日向地誌』1883
2. 喜田貞吉『日向国史』上巻 1929
3. 宮崎県『日向の伝説と史蹟』1929
4. 上代日向研究所『日向古代遺跡遺物地名表』1944
5. 宮崎県『日向古墳地名表』『日向遺跡調査報告書』第1輯 1952
6. 東京国立博物館『東京国立博物館収藏品目録』1956
7. 田中熊雄『宮崎県 繩文・弥生期考古遺物地名録』『宮崎県文化財調査報告書』第2輯 1957
8. 鈴木重治「資料解説 宮崎県内の縄文土器について」『宮崎県博物館報』 第5号 1959
9. 文化庁 「全国遺跡地図 宮崎県」 1962
10. 石川恒太郎「高鍋町光音寺横穴調査報告書」『宮崎県文化財調査報告書第17集』宮崎県教育委員会 1973
11. 石川恒太郎「高鍋町牛牧弥生期住居跡調査報告」『宮崎県文化財調査報告書第16集』宮崎県教育委員会 1972
12. 石川恒太郎「高鍋町光音寺横穴調査報告書」『宮崎県文化財調査報告書第18集』宮崎県教育委員会 1973
13. 茂山謙「児湯郡高鍋町の縄文土器」『宮崎考古第2号』宮崎考古学会 1976
14. 石川恒太郎「高鍋町水谷原古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書第18集』宮崎県教育委員会 1976
15. 茂山謙他「児湯郡下の旧石器」『宮崎考古第3号』宮崎考古学会 1977
16. 日高正晴他「上別府遺跡」「お染ヶ岡地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」宮崎県教育委員会 1980
17. 北郷泰道「持田中尾遺跡」高鍋町教育委員会 1982
18. 鈴木重治『日本の古代遺跡25 宮崎』保育社 1985
19. 日高正晴「永谷横穴墓発掘調査報告書」高鍋町教育委員会 1986

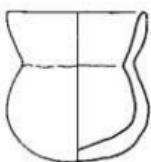
20. 近藤協「妻道南遺跡発掘調査報告書」高鍋町教育委員会 1986
21. 高鍋町「高鍋町史」 1987
22. 谷口武範「持田古墳群からみたその社会」『えとのす32』新日本教育図書 1987
23. 近藤協「水谷原遺跡」「県道日置～南高鍋線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」
24. 梅原末治「持田古墳群」宮崎県教育委員会 1969
25. 「高鍋城」「高鍋町の文化財第二集」高鍋町教育委員会 1975
26. 「高鍋の古墳」「高鍋町の文化財第四集」高鍋町教育委員会 1978
27. 「高鍋の史跡」「高鍋町の文化財第五集」高鍋町教育委員会 1979
28. 「高鍋町持田の遺跡調査報告」「第2次日向遺跡総合調査第2・第3」1967

図 版

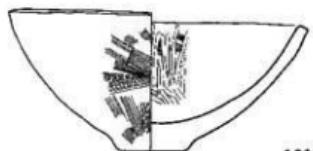
（複数枚）



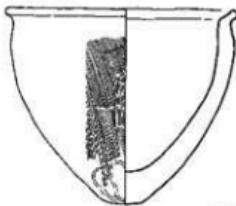
1010



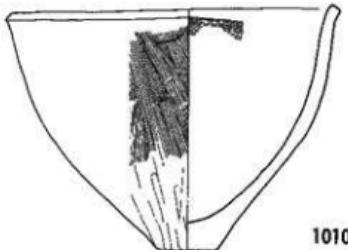
1010



1010

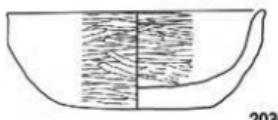
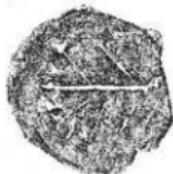
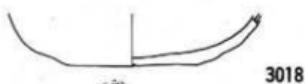
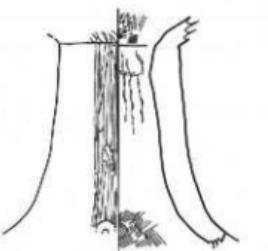
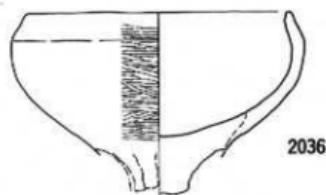


1010



1010

図版1 遺物実測図（1）（3分の1）



2007



2007



2007



2007



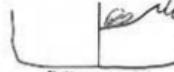
2007



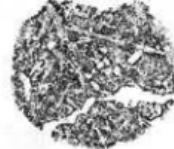
2006



3010



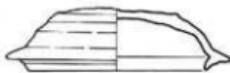
1005



図版2 遺物実測図(2)(3分の1)



2036



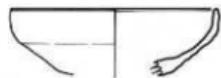
2036



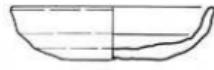
2036



2036



2036



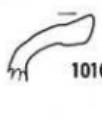
2036



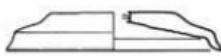
3018



2007



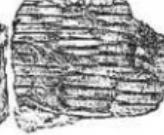
1010



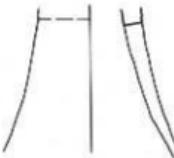
2007



1010



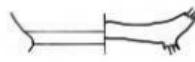
3018



1010



3018

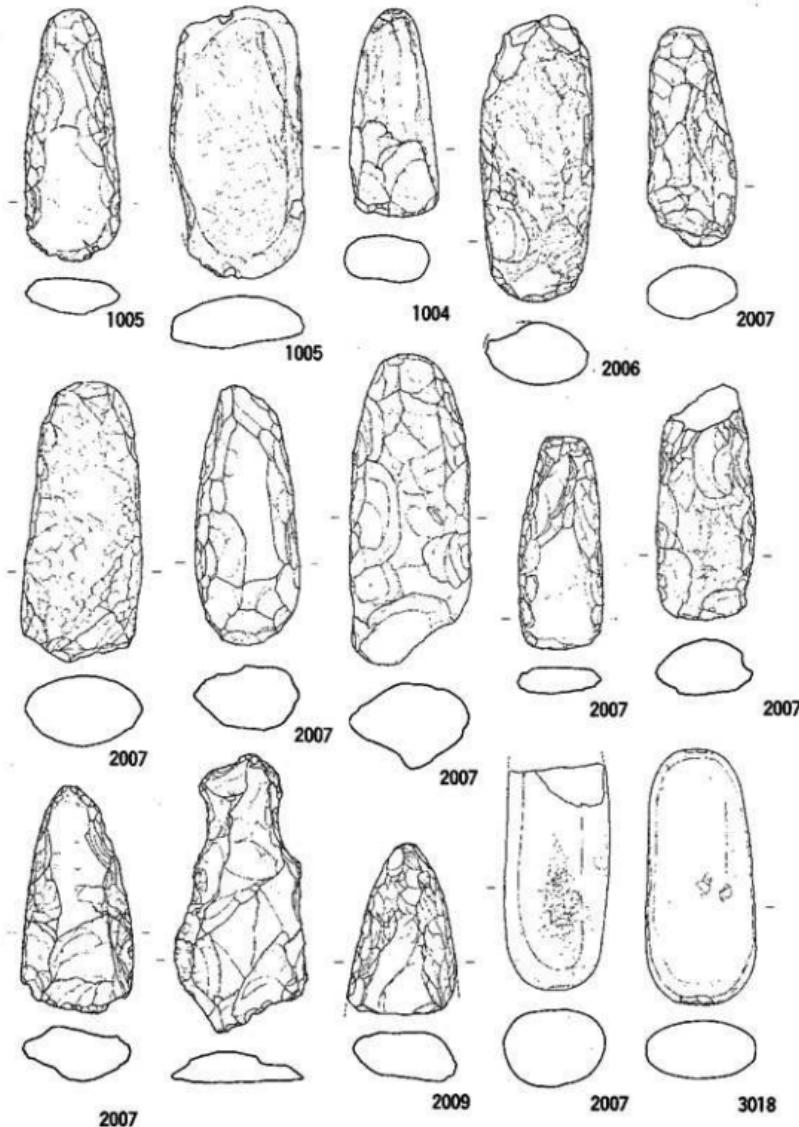


2007

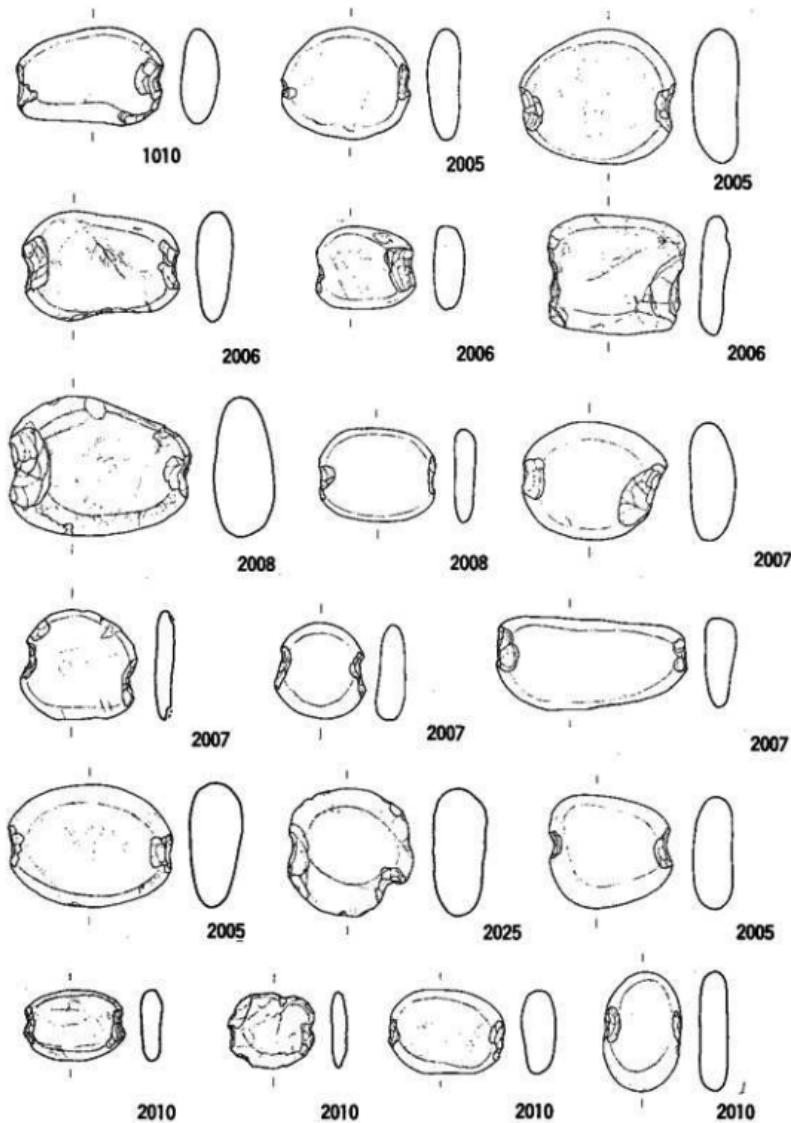


1005

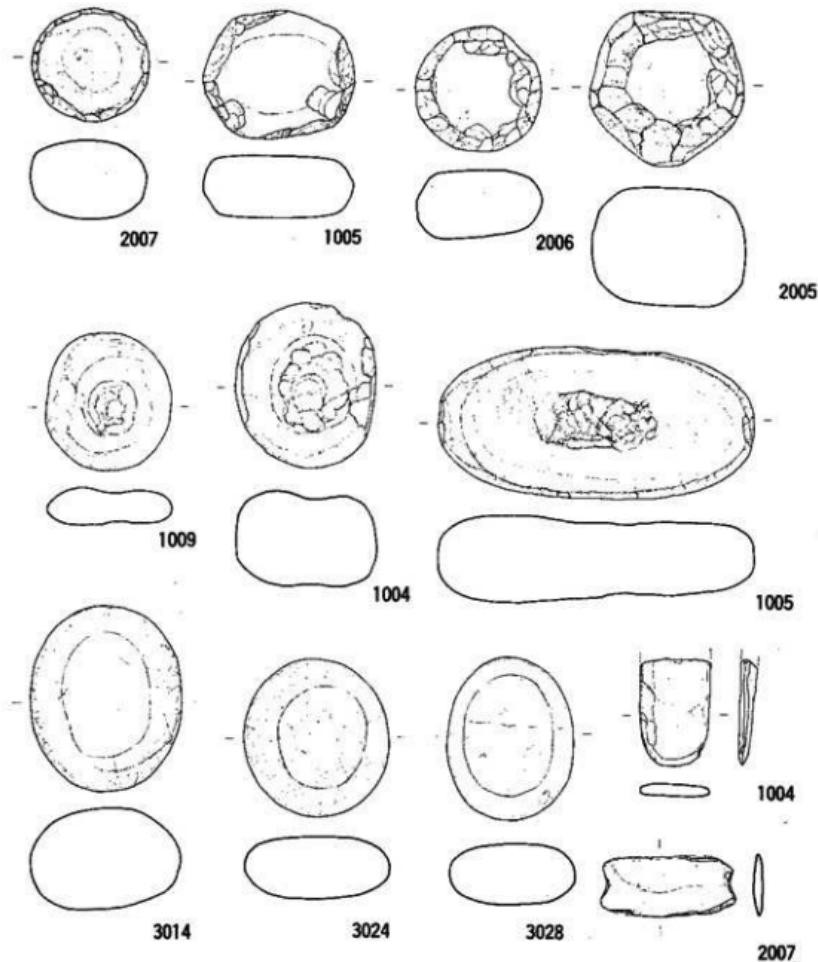
図版3 遺物実測図(3) (3分の1)



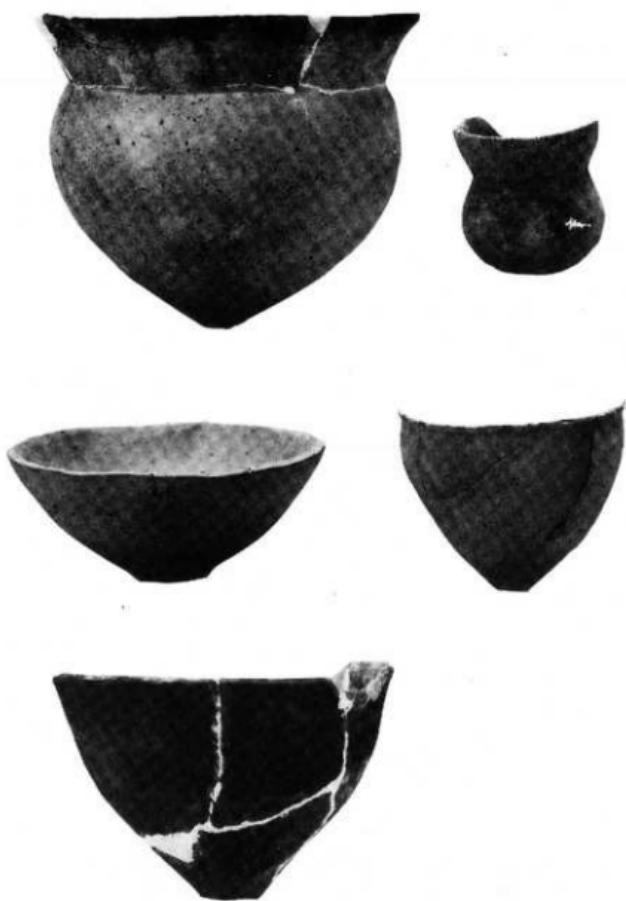
図版4 遺物実測図(4) (3分の1)



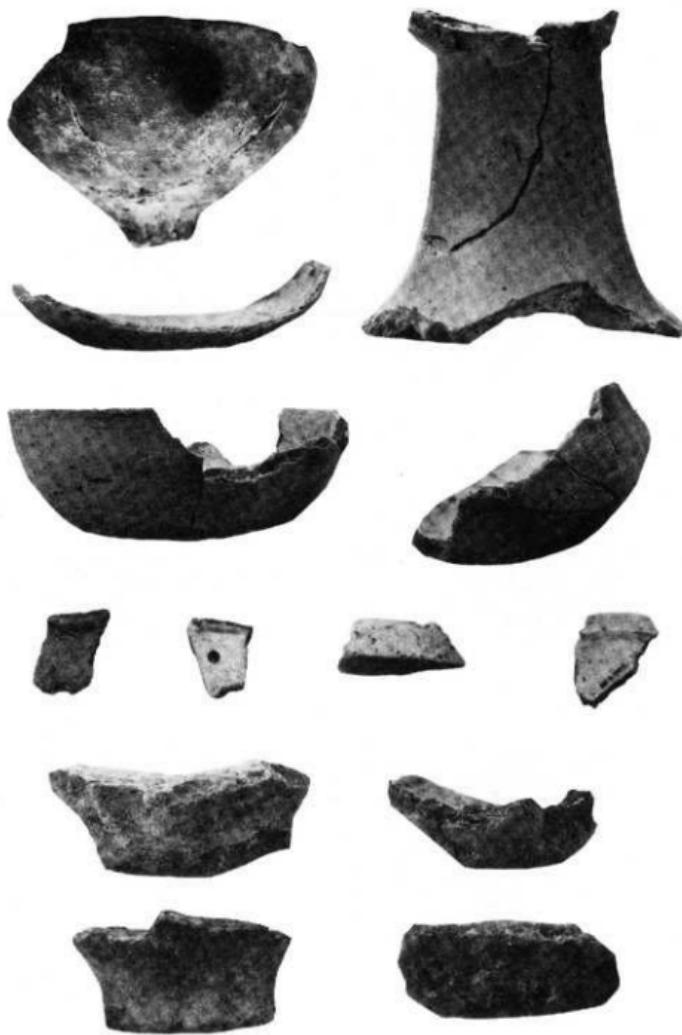
図版5 遺物実測図(5) (3分の1)



図版6 遺物実測図（6）（3分の1）



図版7 遺物写真（1）



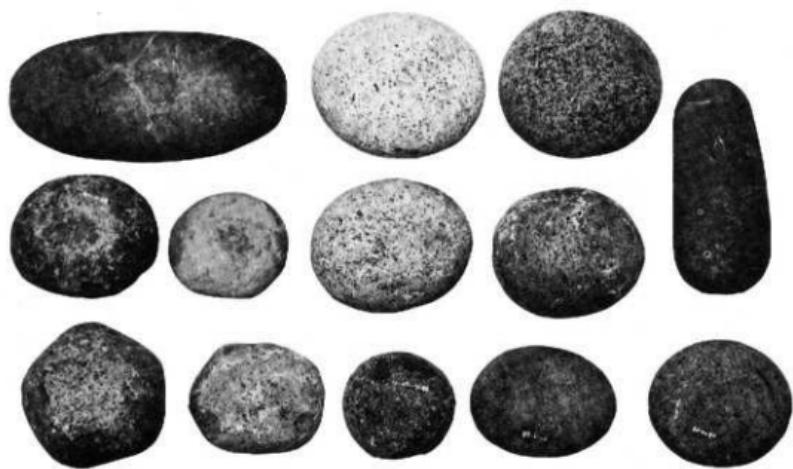
図版8 遺物写真（2）



図版9 遺物写真（3）



図版10 遺物写真 (4)



図版11 遺物写真（5）

高鍋町文化財調査報告書 第4集

高鍋町遺跡詳細分布調査報告書

1989年3月

編集・発行

宮崎県高鍋町教育委員会

印 刷

有限会社 黒田謙写堂
宮崎市大橋2丁目175番地
〒880 電話24-4351番

高鍋町遺跡分布図

高鍋町教育委員会 1989.3



凡例	
○	古墳群
○	遺跡範囲

「この地図は、建設省国土地理院製の承認を得て、同院
発行の25,000分の1地形図を複製したものである。
(承認番号) 平元九種、第105号」

1 : 25,000
500m 0 500 1000 1500

